

令和6年度 豊橋商工会議所 事業報告書【概要版】

1. 物価高・コスト増の影響克服に向けた取り組み

- ① 市内経済の消費喚起を目的として、豊橋市や（一社）豊橋観光コンベンション協会、豊橋飲食業協同組合などと豊橋市プレミアム付電子商品券実行委員会を組織し、30%のプレミアムを付与した**電子商品券「TOYOPay」**を15万セット（額面総額9.75億円）販売した。登録店舗数は当所会員事業所を含む1,094件となった。
- ② 巡回訪問や各種会合、会報誌等を通じて**パートナーシップ構築宣言の普及啓発**を図り、年度末における市内事業所の宣言数は135件となった。
- ③ 市内事業所の取引適正化の実態を把握するため、**豊橋信用金庫との共同によるアンケート調査**を実施し、798事業所より回答を得た。
- ④ 適切な価格転嫁の実現に向けて、**公正取引委員会中部事務所との懇談会**を実施し、取引適正化にかかる各種施策の説明を受けるほか、地域事業所の状況や直面する課題等について意見交換を行った。

【課題認識・状況】

- ▶ 「物価上昇を上回る賃上げの定着」が叫ばれるなか、多くの中小企業では、取引条件を改善する動きが見られるものの、増加する人件費分を転嫁できていない。
- ▶ 継続的賃上げや成長投資のための原資確保に向けた、一層の取引適正化と競争力強化が不可欠である。

【今後の取り組み】

- ▶ 取引適正化の推進に向けた「パートナーシップ構築宣言」の普及啓発を進めるとともに、価格交渉や原価計算のスキル向上につながるセミナーを開催するほか、専門家を活用した価格転嫁相談窓口の開設を図る。

2. 政策・制度に関する提言・要望活動

- ① 日本商工会議所総会・常議員会、各種委員会及び愛知県商工会議所連合会の諸会議に出席し、**税制改正や最低賃金、社会保障制度**などに関する全国的な要望のとりまとめや、広域的な意見の具申等を行った。

- ② 東三河の商工会議所・商工会を構成員とする「**東三河広域経済連合会**」の全体会議を3回開催し、観光振興や公共交通など、産業分野における広域的な諸課題について協議するとともに、関係自治体などと一体となり設楽ダム建設事業促進に関する要望活動を行った。
- ③ 業種業界の意見を集約し、激減する経営環境の影響克服への対応や中小企業施策、商工業関連施策、社会基盤整備等に関する**政策提言・予算確保要望**を豊橋市長に対して行ったほか、関係行政との各種会議を開催し、課題共有や事業活動協力のための意見交換を行った。



豊橋市との政策懇談会
(R6/5/14)



豊橋市への要望
(R6/10/8)

3. 会員サービス事業の充実と組織・財政・運営基盤の強化

(1) 組織強化と財政基盤の確立

- ① 年度末現在の**総会員数は、5,324**（会員 5,143、会員でない特定商工業者 181）で、組織率は40.9%となった。
- ② 商工会議所ビルの**貸会議室・ホールの利用促進、テナント事業を展開**した。会議室・ホール計19室の利用は、年間6,883回であった。
- ③ 会員企業の福祉向上に努めるため、**各種共済・保険制度の推進**を図った。加入者数は、生命共済 815社・2,666名、特定退職金共済 357社・2,422名、個人向け保険商品は、1,333社・1,972名であった。
- ④ 企業の賠償責任リスク、事業休業、財産・工事に伴う保障を総合的にサポートするビジネス総合保険や労災対応型商品（労災上乘せ補償）として業務災害補償プランをはじめとした集団扱い**損害保険制度の加入促進**を図った。
- ⑤ **労働保険事務組合への加入促進**に努め、事務組合加入者は307事業所となった。

(2) 会員サービス事業の実施

- ① 海外展開支援室を通じて、JETRO 名古屋と連携した各種セミナーの開催、各種展示会等の情報発信、個別事業所への取引先照会などのほか、青年部の「Global Summit Toyohashi」事業を共催し、**海外市場に向けた販路開拓や取引拡大**の支援を行った。
- ② 会員相互の交流・親睦を目的とした**会員懇談会**を実施し、80名の参加者が交流を深めた。
- ③ 販路拡大支援事業として、**会報誌へのチラシ同封サービス**を実施し、年間129件の利用があった。
- ④ **貿易関連諸証明**として、原産地証明787件、インボイス証明13件、サイン証明206件を行ったほか、貿易登録や証明書の発給申請、特惠原産地証明などに関する問い合わせに対応した。
- ⑤ ナショナルプロジェクトである **2025 年大阪・関西万博**の成功に貢献するとともに、会員優待サービスの一環として前売入場チケットの販売協力を行った。

(3) 広報活動・調査事業の実施

- ① 広報誌「ニューボイス」やメールマガジン、HP、SNS を活用し、会員や関係機関、市民に広く当所事業を紹介するほか、経営支援制度など有益な情報の提供に努めた。
- ② 広く当所の諸活動を PR するため、定例記者会見等を6回開催したほか、報道機関向けの情報提供のため、252件の**プレスリリース**を行った。
- ③ LOBO 調査、中小企業景況調査、景気動向調査、大型店販売動向調査等の調査を行い、**地域経済の現況把握と情報提供**を行った。

4. 中小企業に対する支援の充実

(1) “伴走型支援”による相談対応

- ① 高度で**専門的な経営相談**に対し実践的な課題解決を図るため(株)サイエンス・クリエイト、豊橋信用金庫、日本政策金融公庫豊橋支店、よろず支援拠点、その他関係機関と連携を図り、経営計画・BCP 策定、経営・販路拡大、IT 活用、税務・財務、創業、事業承継など、各種経営相談に対応した。
- ② 弁護士や税理士、弁理士、社会保険労務士、IT コーディネーターなどの専門家による定例専門相談を延べ69回開催し、58名が利用した。また、実践的に経営課題の解決を図るため、事業所へ75件の**専門家派遣**を行った。

- ③ 国・県・市等の中小・小規模事業者向けの**各種補助金の活用・申請に関する相談**に対応し、小規模事業者持続化補助金を中心とする22件の申請支援を行った。
- ④ 豊橋市や(株)サイエンス・クリエイト、地元金融機関とともに、「**とよはし創業プラットフォーム**」に参画し、延べ308件の窓口・巡回相談に対応するほか、とよはし創業塾などの支援事業を実施した。また、業界動向に明るい経営者や支援スキルを持った専門家によって組織した「**創業・スタートアップサポーターズ**」を活用した。
- ⑤ IT 導入・デジタル活用を後押しするため、会員事業所から募った22社のITベンダーと連携した相談窓口として「**IT 導入サポートデスク**」を設置し、課題解決事例の紹介や相談対応を実施した。
- ⑥ 「**愛知県事業承継・引継ぎ支援センター 豊橋サテライト**」とタイアップし、38事業所からの相談に対応したほか、豊橋市や同センターなどと形成した相談支援の地域プラットフォーム「**とよはし事業承継ひろば**」を通じ、親族承継、第2創業などをテーマとしたセミナーを2回開催した。



とよはし創業塾
(R6/12/12)



事業承継セミナー
(R7/2/28)

【課題認識・状況】

- ▶ 後継者不在による廃業の増加は、雇用や技術、ノウハウ等の喪失に繋がり、地域経済全体の活力を低下させる。

【今後の取り組み】

- ▶ 円滑な事業承継・事業引継ぎを後押しするため、早期着手を促すための支援ニーズの掘り起こし、地域内でのM&A や創業希望者とのマッチングなど、多様な手法による事業継続を支える。

(2) 人材育成・雇用確保等の人材サポート事業の推進

- ① 人材の確保と就業機会の創出を図るため、開設10周年を迎え、サービス名称を「**とよジョブマッチ**」とした「**無料職業紹介所**」を通じて就職斡旋を行い、年度内の平均有効求人数は274名、新規登録求職者数は97名となり、74件の求人者を紹介した結果、17名が就職に至った。

- ② 多様な働き手の確保に向け、「外国人材の活用促進」をテーマに、「**外国人雇用セミナー**」を開催し、28 名が参加した。
- ③ 若者の地元企業への理解や就職意欲を高める「**ビジネスパーク**」を春、秋の 2 回にわたり、市内中学校 21 校及び豊橋工科高校で参加生徒数 2,860 名に対し、196 講座を開催した。
- ④ 「**東三河学生就職情報センター**」を通じ、東三河合同企業研究フェアを延べ 329 企業の参加を得て、6 回実施し、277 名の学生が参加した。また、専用 HP「東三河学生就職 NAVI」や就活ガイド冊子「東三河就活読本」を通じて企業情報を公開した。
- ⑤ キャリア教育と企業の認知度向上を図るため、地元大学生と企業が学食で交流する「**モグジョブ**」及び WEB 形式による「**オンラインモグジョブ**」を実施し、会員事業所が 125 名の学生と交流した。
- ⑥ 社会人のキャリアアップやリカレント教育、高齢者・女性等のスキル向上に資するため、「**豊橋商工会議所パソコン教室**」を運営し、247 名が、延べ 18,889 回受講した。
- ⑦ 日本商工会議所や東京商工会議所との共催により、簿記や珠算の集合型**検定試験**のほか、リテールマーケティングやビジネス英語、カラーコーディネーター等のネット試験を実施し、当地においては、延べ約 920 名が受験した。



春のビジネスパーク
(R6/6/4～6/10)



モグジョブ@豊橋創造大学
(R6/12/12)

【課題認識・状況】

- ▶ 少子高齢化の本格化や生産年齢人口の減少により、人材不足が一層深刻化。受注調整や生産停滞、投資抑制が発生するとともに、中長期的な事業継続や技術伝承が不安視されている。

【今後の取り組み】

- ▶ 就職活動の早期化や多様化を踏まえ、新卒採用支援事業を再構築・リニューアルし、就活生と地元企業の接触機会を創出する。
- ▶ キャリア人材をはじめ、高齢者、女性、外国人、障がい者、副業・兼業人材など多様な働き手の活躍促進を図る。

(3) ビジネスマッチング支援事業の実施

- ① 東三河及び周辺地域の商工会議所・商工会、金融機関・関係支援機関との連携によりビジネスマッチング事業として「**地域の絆情報交換・商談会**」(主催:東三河広域経済連合会)を開催し、登録企業 246 社のうち 214 社が参加し、446 件の商談を行った。

(4) 小規模企業等経営改善普及事業の推進

- ① 経営指導員 12 名、補助員 3 名により 1,528 件(巡回 433 件、窓口 1,095 件)の**小規模事業者への各種相談**を行った。

(5) マル経融資制度の普及および利用促進

- ① 小規模事業者経営改善資金(通称:マル経)については、**融資推薦件数 23 件・総額 1 億 9,400 万円**を融資推薦した。

(6) 経営安定に向けた支援

- ① 地震等災害への備えや被災時における対応策などを学ぶため、NPO 法人東海リスクマネジメント研究会主催、当所共催により**第 20 回防災フェア**をオンライン形式で開催し、南海トラフ地震臨時情報や液状化対策などをテーマとしたセミナー・講演を配信した。
- ② 「**健康経営**」の取組を促進するため、損害保険会社や協会けんぽ等と共催によりセミナーを開催したほか、豊橋市や協会けんぽとともに「**とよはし健康宣言事業所**」の普及促進を図り、190 事業所を認定したほか、優良事業所の認定・表彰を行った。

5. 地域産業振興事業

(1) 中心市街地の活性化と商業振興

- ① (株)豊橋まちなか活性化センターと協力し、共通駐車券事業、まちなかインキュベーション事業、豊橋まちなか未来会議の運営などの**中心市街地の基盤整備やプラットフォーム形成**に関する事業を展開するとともに、まちなかマルシェやまちなか Garden など各種イベントを企画運営し、賑わい創出事業に取り組んだ。
- ② **第 37 回都市デザイン文化賞**を emCAMPUS に贈った。

(2) ものづくり振興と新産業創出支援

- ① 東三河の商工会議所・商工会と(株)サイエンス・クリエイト、豊橋技術科学大学や愛知工科大学により組織する「**東三河産業創出協議会**」において顕彰事業「**東三河ものづくり大賞 2024**」を実施し、(株)堀江・設計事務所、(株)Waphyto に贈った。

② 地域内の産・学・官・金の連携をより活発化させて新事業創出を目指すため「**東三河産学官金連携形成委員会**」にて配置した 4 名の**ものづくり技術支援コーディネーター**が 39 事業所を訪問した結果、豊橋技術科学大学への紹介・2 件、企業連携支援・5 件、技術士による支援・1 件を実施した。

③ 「**ものづくり博 2024in 東三河**」（主催：東三河広域経済連合会）を開催した。80 社・団体による約 150 小間の出展のほか、生成 AI や人工知能などをテーマにした各種セミナー、併催イベント等を実施し、**15,500 人（2 日間）の来場**があった。



ものづくり博 in 東三河
(R6/6/14～6/15)



ものづくり大賞受賞式
(R7/2/17)

(3) 観光コンベンション事業

① **第 68 回ええじゃないか豊橋まつり**の一環として、関係者の一体感醸成を図るため前夜祭を主催したほか、「まちじゅうええじゃないか」事業を運営するとともに、TOYOHASHI BIG PARADE に商工会議所チームとして参加した。

② 手筒花火をメインコンテンツにした誘客イベントとして「**第 29 回炎の祭典**」をかもめ広場少年サッカー場で開催し、146 本の手筒花火や綱火、台物花火、打上花火などを、関東・関西方面からの旅行客を中心とした 4,091 人に披露した。



ええじゃないか豊橋まつり
(R6/10/20)



第 29 回炎の祭典
(R6/11/2)

6. 地域基盤整備事業

(1) 三河港の整備と利用促進

① 三河港振興会などと連携し、臨港道路東三河臨海線をはじめとする**物流インフラの整備促進**を求めるほか、地元意見を踏まえた**港湾計画改訂の着実な推進**などについて積極的な要望・提言活動を行った。

(2) 広域交通ネットワークの整備促進

① 東三河地域や三遠南信地域の行政、商工会議所・商工会などと連携し、三遠南信自動車道、浜松湖西豊橋道路、名豊道路、東三河縦貫道、名浜道路、三河港へのアクセス道路などの整備促進について**要望活動を展開**した。

② **浜松湖西豊橋道路建設促進期成同盟会**は、浜松湖西豊橋道路の事業化の動きを加速させるため、国に対する要望活動を展開するとともに、活動の効果向上を目的として、愛知・静岡両県を構成員に加え、愛知県知事を会長とするなどの**組織強化**を図った。

【トピックス】広域幹線道路の開通

- ▶ 間が令和 7 年 3 月に開通し、全線が開通。引き続き、早期 4 車線化に向けた要望を推進。
- ▶ 三遠南信自動車道・・・鳳来峡 IC－東栄 IC 間が令和 7 年度中に開通予定であり、愛知県区間全線が供用となる。

(3) 水資源の確保

① **設楽ダム建設**に向けた国への働きかけ、及び水源地域の振興等について、東三河の経済界が一体となって国土交通省及び愛知県へ要望した。

(4) 環境問題への対応

- ① **第 13 回環境経営賞**は、最優秀賞を(株)アイセロ、優秀賞を一幸建設(株)、(株)夏目デザインに贈った。
- ② **2050 年カーボンニュートラル**を見据え、各種会議等において、日本商工会議所の CO₂ チェックシートの普及を図り、エネルギー排出量の見える化を推進した。

(5) 広域経済圏における連携

① **東三河広域経済連合会**は、社会基盤整備やものづくり振興、広域観光などの広域的諸課題についての協議検討、「健康な地域社会創造」、「産業と地域を支える人材育成」などの重点プロジェクトを推進したほか、連合会として取り組むべき課題・テーマを共有するとともに連携の深化を図るため、関係自治体や大学等の参加を得て、「**東三河経済フォーラム 2025**」を開催し、前日商会頭の三村明夫氏の講演などを実施した。

② 「**東三河スタートアップ推進協議会**」を通じ、地元自治体や(株)サイエンス・クリエイト、豊橋技術科学大学などと連携し、**地域発のスタートアップ創出**に向けた機運醸成イベントを開催したほか、東三河の商工会議所・商工会、信用金庫等の職員を対象とした勉強会を開催し、**スタートアップ支援**に関する課題共有や解決策検討を進め、各組織における支援体制強化に努めた。

【トピックス】ステーション Ai 開業

- ▶ 愛知県が「Aichi-Startup 戦略」に基づき推進する、日本最大級のスタートアップ支援拠点「ステーション Ai」が令和 6 年 10 月に開業。
- ▶ 開業 5 年後に国内外からスタートアップやパートナー企業など、1,000 社の入居を目指す。

- ③ 愛知県東三河県庁や東三河 8 市町村などとともに「**東三河ビジョン協議会**」に参画し、「**東三河振興ビジョン 2030**」の**実現**に向け、重点プロジェクトとして設定された「**関係人口、移住・定住の創出**」事業を中心に展開し、関係人口の創出に向けたイベントやセミナーの開催、移住イベントへの出展による関東圏からの移住促進施策などを実施した。
- ④ 三遠南信地域連携ビジョン推進会議の主催による「**第 32 回三遠南信サミット 2025 in 東三河**」が、「地域の強靱化を考える～連携の再確認～」をテーマに開催され、3 つの分科会での討議、前岩手県陸前高田市長の戸羽太氏を講師に招いた講演を踏まえ、道路や港湾の機能等の再確認と役割の最大化、激甚化・頻発化する災害に備えた広域的な共助による地域コミュニティの強化、BCP 策定促進と官民連携による事業継続力強化に関する宣言文を採択した。
- ⑤ 三遠南信地域の商工会議所・商工会で組織する「**三遠南信地域経済開発協議会**」は、三遠南信自動車道の工事現場視察会を開催したほか、財務省、国土交通省への整備促進要望を行った。



三遠南信サミット in 東三河
(R7/1/27)



東三河経済フォーラム
(R7/2/17)

7. 議員総会・常議員会・ 部会・委員会等

(1) 議員総会・常議員会など

- ① 議員総会、常議員会、議員昼食会などを開催し、経営や地域に関する情報の伝達と意見集約・交換等を活発に行った。
- ② 部会事業の活発化や業種業界の意見集約等を図るため、正副会頭と部会長による**部会長懇談会**を開催した。

(2) 部会・委員会など

- ① **全 17 部会**が部会毎の事業計画に基づいて、各種講演会や視察会、行政との意見交換など、活発な部会活動を推進した。
- ② 第 24 期に設置した、ええじゃないか推進、ビジネスパーク、会員サービスの各委員会において、それぞれのテーマに基づき事業推進や検討研究を行った。
- ③ **青年部**は、未来共創、渉外交流、ええじゃないか、国際ビジネス、会員拡大、総務の各委員会による各種事業を実施したほか、日本 YEG や東海ブロック、県連の各種事業への参画や他単会との連携に努めた。また、**会員拡大**に取り組んだ結果、56 名の新入会員を迎えることができ、年度末時点の**会員数は 186 名**となった。
- ④ **女性会**は、「絆」をテーマに、役員及び 3 委員会（地域創生・ステップアップ・会員交流）が中心となり、講演会・研修会等の例会を開催したほか、全国商工会議所女性会連合会滋賀全国大会などに参加し、積極的な交流を図った。また、当番として企画・運営にあたった「**三河商工会議所女性会サミット**」を豊橋総合動植物公園で開催し、約 80 名が参加した。



GLOBAL SUMMIT
(R6/12/13)



三河商工会議所女性会サミット
(R6/11/19)

(3) 事務局運営

- ① 全国各地の商工会議所とともに、**能登半島地震**の被災事業者からの相談に対応するため、9 月 30 日から 10 月 4 日まで、経営指導員 1 名を現地に派遣し、事業再建にかかる補助金申請支援等にあたった。
- ② **事務局運営における生産性向上や業務効率化**、職員の働き方改革への対応を図るため、IT 導入補助金を活用し、勤怠管理システムを導入するほか、事務局オフィス環境改善を実施した。



能登半島支援
(R6/9/30～10/4)



事務局オフィス環境改善
(R6/9/17～)